

第3回 学校運営協議会 記録

		学校名	横手市立山内小学校
開催日時・時間・場所		令和5年2月28日（火）・午後3時30分～・山内小学校会議室	
出席者数	11名	欠席者数	1名
協議案件	①これまでの学校運営について ②後期学校評価、保護者アンケートの結果について ③コミュニティ・スクールの推進に係るアンケート（評価書）について ④今年度の振り返りと来年度に向けて ・各委員から評価書を基に意見を述べてもらう。		
協議の主な内容	①今年度のコミュニティ・スクール基本構想に基づく振り返りから ・お年寄りとのふれあい（ふれあいの手紙、福祉施設・保育園等との交流、伝統芸能（御嶽清流太鼓）の継承、総合的な学習の時間等による地域のよさの発見、山内芋の子、山内人参栽培等による地域作物の栽培と活用、学校林活動による地域環境の創造について（別紙参照） ②学校評価、保護者アンケートの結果から ・学校評価の前期と後期の比較、保護者アンケートのCS関連項目（「地域のよさを感じたり…」、「地域の力を借りながら…」）の高評価について（別紙参照） ③CS推進に係るアンケートの結果から ・特に、「協働できる委員の人選、十分な説明や情報提供、地域人材や素材を生かした学習活動」の項目での高評価を得る。「学校と地域との結び付き、CSの取組の周知や情報発信」の項目については、平均値3.0をきる結果に。記述欄への貴重な意見、提案の一部紹介。（別紙参照） ④今年度の振り返りと来年度に向けて ○CSと連携した学校林活動は、継続し工夫しながら続けていきたい。今までやってきたことをより広く、深くやっていければと思う。 ○昔は学校と住民のふれあいが強く、効果を上げていた。つながりを見直す時期にきていると思う。昔のことを子どもたちに伝えながら山内のよさを感じて成長していったほしい。（いぶり体験、歴史語り部など） ○協議会での課題をしばって活動する上でのテーマを決められれば、地域コーディネーターとして地区交流センター等とも連携し、広報活動を積極的に取り組むことができる。 ○子どもたちへの関わりが特定化されてきている。CSに関して子どもたちへの周知を含め、地域全体が集まってくることができる仕組みづくり、協力しやすい・提案しやすい仕組みづくり、体制づくりを構築していければと思う。 ○子ども数の減少に伴い、保護者を巻き込むことを含めて幼保小の交流をより充実させていく。 ○課題として上げられている情報発信については、山内地域局や地区交流センター、農協等に用事があって来る人も多いので、掲示板コーナー等を設置し、地域住民にアピールしたいものを広報活動として行い広げていく。 ○児童減少に伴い、学校行事をどう地域と関わり機能させていくか。例えば、運動会であれば小学校の実施要項案をもとに、来年度始めに実行委員会を立ち上げ動き出すようにする。孫のいない、子どものいない住民も巻き込んだものにしていく。また、地域の文化祭で、児童も学習の成果を発表する。（生活科の発表など） ○やる側もやられる側も負担にならないよう考えていく。（地域住民と児童の交流の場として学校の空きスペースの活用、PTAと学校運営協議会との協力体制の構築など）		
次回の連絡	・基本的に任期が2年なので、来年度も引き続きよろしくお願ひしたい。		
記録者	山内小学校 教頭 古関 栄		